

「書物と経師」

11月1日(日)に学園祭協賛行事の一環として、「書物と経師」をテーマとするフォーラム学生と図書館を本学図書館第2閲覧室で開催しました。その時の講演と講演の後の学生からのコメントをもとに図書館フォーラムを振り返ります。

<講演 要旨>

「書物と経師」

株式会社 大入 おおいりたつお
代表取締役 大入達男 氏



経師は、職人です。私は、株式会社大入という会社で30数名の職人が働く会社の代表取締役を務めております。まず経師の歴史について話します。経師の歴史は古く、1300年前には経師は、すでに存在していました。当時の経師の仕事といえば写経をして写経した内容を校正して、写経された紙を継ぎ経巻に仕立てる事(装潢)でした。室町時代に木版印刷が発達するようになると装潢が主な仕事になりました。今では和本を仕立てる仕事は少なく、先達が残した本を修復する仕事が主になっています。和本の需要が少なくなってきているので、和本の事を皆さんに知って欲しいという思いを持って本日は参りました。和本において装潢の種類は約30種類あります。言葉だけでは、製本の方法を理解するのは大変難しいので、いろんな和本の装潢のサンプルを作っている最中です。来年には出来上がる予定です。

それでは私達が日頃行っている本の修復、保存、装潢、デジタルアーカイブについて話しま

す。傷んだ本を直して、持主に返しますが、修復する前と同じような所に同じ様に置かれるとまた本が傷むので、「そこに置かれるとまた傷む可能性があるのでケース(帙など)に入れてください。」と助言することがあります。和本が長く残っていて欲しいと切実に願っています。帙や桐箱に入っている本は湿気もうまく吸収しますので保存状態がいいです。私達は本の保存のお手伝いをしているということをまず念頭に置いて、修復という仕事に取り組んでいます。最近では、オリジナルそのものに触れるだけでなく、データとして取り込んで保存するなど経師の技術は日々刻々と変化しています。

本の装潢ですが、実に様々な装潢があります。立箋、卷子本、折本、折手本、旋風葉、唐本などです。書物の最も古い形態は巻物ですが、巻末を見るのに不便なことから考え出されたのが和本の始まりともいえる折本です。和本を簡単に説明すると、和紙を二枚に折って幾枚か重ね、糸か糊で綴じたものです。和本の仕立ての種類として大和綴や列帖装などがあります。

次にデジタルアーカイブについてです。本のデータを取り込んで、データとして保存しますが、この時に取り込んだデータに触れることは絶対にしません。取り込んだデータ全てをいかにきっちり出していくかが重要です。

最後に縮緬本の話です。縮緬本は、和紙にしわを作ったものです。縮緬本の工程としてはまず印刷をして、紙を縮緬化します。紙が元の大きさより20%近く小さくなりますので、絵が鮮明に見えてきます。持ったときの紙の柔らかさが受けて、海外にたくさん出ていきました。

経師は、絶滅危惧種になってきましたが、私達がその中で今の技術を使って、どのように仕事をしていったらよいか、また今後どのように経師を残していったらよいかを考えて日々頑張っています。